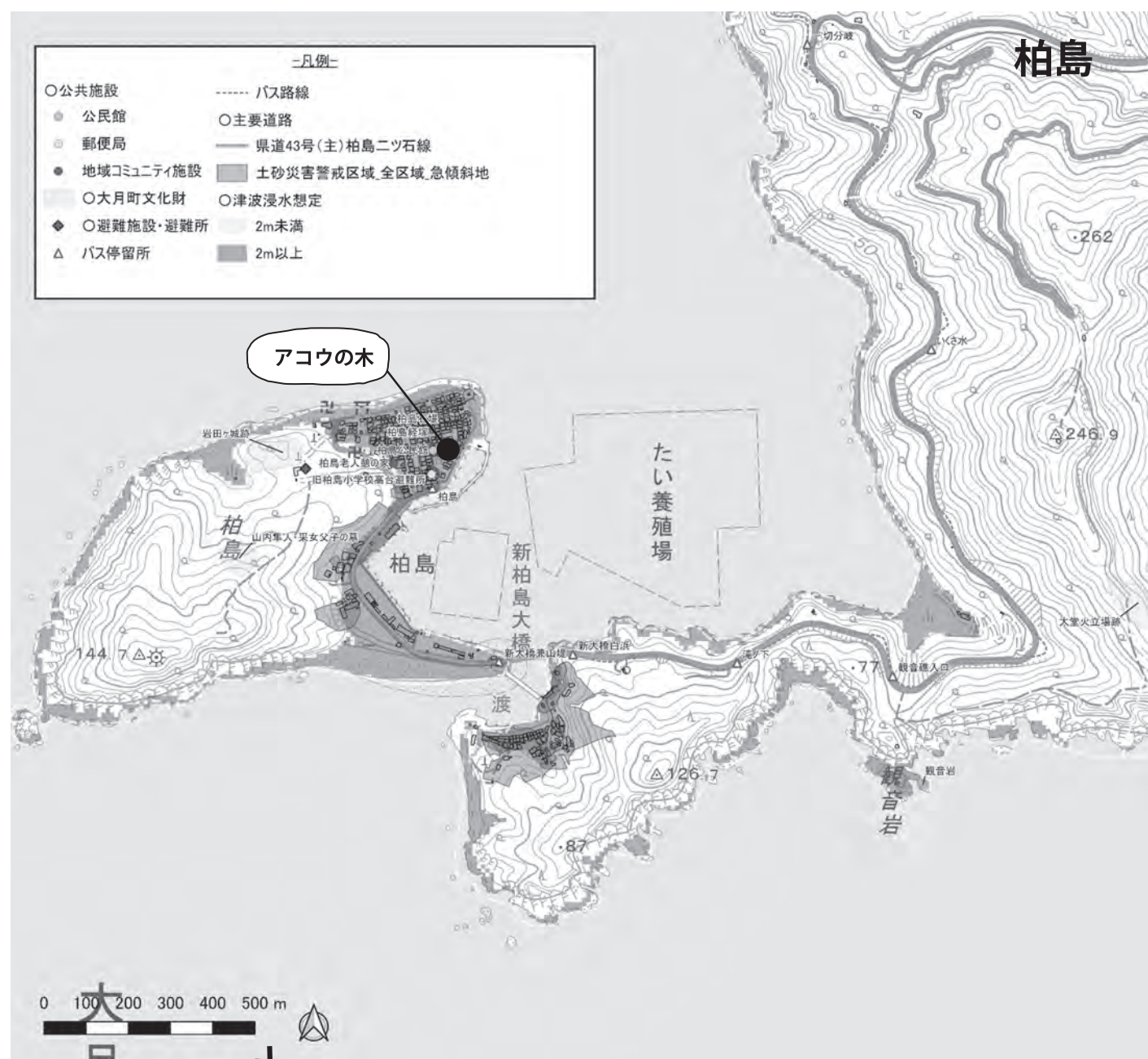




『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。
※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定の取組	→			
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第1回（今回） 地区の状況を共有する	第2回（仮） 復興目標を考える	第3回（仮） 土地利用を考える	第4回（仮） 地区での準備を考える
				パブリックコメント
				計画策定

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel : 0880-73-1140 Fax : 0880-73-1380

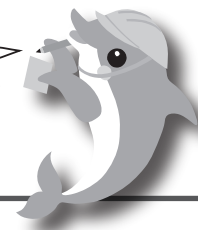


ホームページ



OTSUKI_JIZENFUKKO

大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやインスタグラムで発信しています！ぜひフォローしてください！



大月町 事前復興 まちづくり かわら版

柏島

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。 地区についてたくさんの意見がでました！

2024年12月2日（月）19:00～21:00、柏島公民館2階にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイデアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



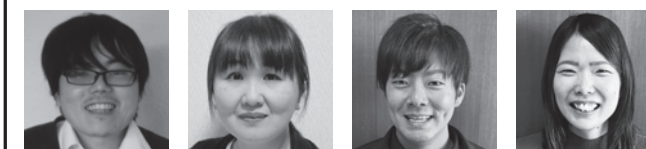
令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6～8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 柏島の担当職員の紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



半山 新 徳弘 多恵 大堀 貴広 山岡 友里恵

柏島地区を担当させていただいております。観光スポットとして有名な自然豊かな柏島ですが、災害時には孤立や津波が予測されます。

柏島に住む皆さんに教えていただきながら、座談会等を通して、災害時の備えや復興について考えていきたいと思っています。

よろしくお願いします。

皆さまと話し合った内容を
2～4ページにまとめています。

自然環境が良い！

- 良さ**
- ・一切から見る景色がキレイ（海、空気、景色に魅力がある）
 - ・ヘリから島を見せてもらった時、白い石で囲まれていてとても綺麗だった
 - ・夕日がきれい
 - ・海がきれい（世界一の海）
 - ・イルカがいる
 - ・漁種が豊富
 - ・お宮のアコウの樹が立派

- 課題**
- ・風が強い

人のつながり

- 良さ**
- ・いろいろなコミュニティがある
 - ・コミュニケーションがとりやすい
 - ・近所に声をかけてくれる人がある
 - ・一部結束力がある
 - ・島の生活、人が集まっている
 - ・コミュニティが強い

- 課題**
- ・地区の集まりに来ない（来る人は毎回同じ人）
 - ・昔に比べたら人のつながりが弱くなった
 - ・消防団の活動が減った気がする

- アイデア**
- ・つながりを大事に（人情）
 - ・各団体（婦人会、消防団など）の交流を増やす
 - ・地区の集まりに web 会議を活用する

産業のこと

- 良さ**
- ・自然のものが産業になる
 - ・第一産業が活発
 - ・養殖が盛ん（マグロ養殖の発祥地）
 - ・雇用する会社がある

- 課題**
- ・イルカが漁業の邪魔になってしまう（養殖の魚がイルカを怖がって餌を食べなくなってしまう）

- アイデア**
- ・商店の存続のために補助額を増額してもらう
 - ・商店の整備、改良を町にしてもらう

暮らしのこと

- 良さ**
- ・人が優しい（移住者にやさしい）
 - ・若い力がある
 - ・高齢者が元気
 - ・コンパクト、徒歩が生活で成り立つ
 - ・「水道水がおいしい」と観光客に言われる
 - ・御飯がおいしい（ところてん、うおめし、こうしめし、ブリうどん）
 - ・商店がある

- 課題**
- ・高齢化であまり歩いていない
 - ・人が少ない
 - ・独居が増えた
 - ・人口が減って商店が5年後は厳しい
 - ・買い物ができるところがない（下着など人に頼まず、自分で買いたいものがある）

- アイデア**
- ・ネットで買い物ができるようにしたい（高齢者）

宿泊施設など観光資源がある

- 良さ**
- ・宿泊施設が沢山ある
 - ・観光客が多い（駐車場ができて便利）
 - ・駐車場ができて路上駐車が減少した
 - ・グラスボート、ダイビング、宿泊業
 - ・安心して観光に来られる

- 課題**
- ・観光客が多い（私有地に観光客が迷い込む）

「これより先、私有地」の看板を見逃して私有地に入り込む

- アイデア**
- ・太平洋と豊後水道が入り混じって美味しい魚がたくさんいる。
 - ・美味しい魚のことを釣り人や観光家に口コミで広めてもらう
 - ・観光客が来るシーズンだけで個人商店には来ない
 - ・観光客用に指定のごみ袋を売って環境を守る仕事を作る
 - ・観光シーズンだけでコンビニを開く

移住者について

- 良さ**
- ・結婚して移住される！ターンもある
- アイデア**
- ・きれいな家があれば養殖業の若い人が地域に住んでくれるかもしれない
 - ・空き家の対策（名義変更されていない、荷物がそのまま、ブラジルに移住した人の所有していた土地など）

防災について

- 良さ**
- ・避難場所へのアクセスが良い
 - ・消防団がしっかりしている
 - ・区長、組会長が素晴らしい（防災に詳しい）
 - ・災害経験者が多い
 - ・ヘリポートがある

- 課題**
- ・船が港にいるときに地震がくると船を沖に出すのに時間がかかる（船を失うと復興に時間がかかる）
 - ・山のすぐそばに家がある（山から岩などが崩れてこないか不安）
 - ・津波より、液状化など埋め立てた土地が心配
 - ・平地がない
 - ・高台にテントを張るスペースが少ない
 - ・災害時、避難場所に人が入りきるキャパがあるか心配

住民 350 人＋観光客で 1,000 人くらいになる今のままでは対応できない

- ・避難場所が孤立しないか心配
- ・避難道が危険
- ・避難道の看板を増やす
- ・耐震、除去などをしたいがお金がない

- アイデア**
- ・一回限りではない定期的な意見交換、意識共有を行う
 - ・避難場所へ道が険しく、手すりしかなくて行きにくい
 - ・避難道の看板を増やす
 - ・アコウの樹は残す（安産祈願の木でもあり、3 回地面を叩いた後津波を止めた逸話がある。看板を作って語り継ぐ）

道路・公共交通のこと

- 良さ**
- ・アクセスが良い（立派なトンネルがある）
 - ・道が良くなった（ほかの地区に行きやすくなった）

- 課題**
- ・道が良くなった反面、行動範囲が広がり人が定住しなくなった
 - ・公共交通が少ない
 - ・買い物に出た時に食事もして帰りたいが、帰りの手段がなくなるため長居できない
 - ・バスの本数が少ない（土日の昼に一本あると良い）

まちづくりの方向性

- 災害にそなえるまちづくり
 - ・避難場所の拡充
 - ・活動センターに各々物資を置くようにする
 - ・ヘリを活用した物資の配送
- つながりを大切に
 - ・災害後に戻って来られるまちづくり
 - ・震災・地震保険に入る
 - ・柏島にどうにか戻ってきて生活したい（住めば都）
 - ・住んでいる人の生業がきちんとしている町
 - ・たくさんの生業があるので継承したい
 - ・仕事は住み続けられるために必要（商売、たこ焼き、アイスなど）
 - ・漁業に向いている地形を生かして柏島で復興（地元コミュニティを維持しながら復興）
 - ・綺麗な海の柏島を持続させる
 - ・元の柏島に戻ってほしい
- 観光のまちづくり
 - ・安心できる観光地
 - ・観光産業の再建
 - ・レストランを増やす
 - ・ファンづくり
 - ・テレビなどで特集をしてもらう
 - ・おもてなしをする
 - ・移動販売車に来てもらう
 - ・インバウンドはきている（オーバーツーリズム）